

港湾・交通・観光対策特別委員会審査概要報告書

委員長 大井 正樹

- I 開催年月日 令和 7 年 5 月 22 日（木）
- II 会議時間 午後 1 時 00 分～午後 1 時 31 分
- III 出席委員等〔出席委員〕◎大井 正樹 ○上田 武 新開 広恵
田中 勝文 林 貴文 筏井 哲治
中村 清志 石須 大雄 本田 利麻
狩野 安郎
(◎…委員長 ○…副委員長)
〔議長〕 藪中 一夫
〔副議長〕 高岡 宏和
〔説明員〕 別紙名簿のとおり
〔委員外議員〕 なし
〔事務局職員〕 松本 武司 島田 輝 二口 崇
〔傍聴者〕 なし

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

〔産業振興部〕

- (1) 令和 7 年度観光誘客施策の主な取組について
- (2) 令和 7 年度伏木港へのクルーズ船寄港に伴う取組について

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

（ 以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示 ）

【令和 7 年度観光誘客施策の主な取組について】

- 高岡雅美（みやび）プレミアムプロモーション事業について、どのような方々を対象に情報発信するのか。また、インフルエンサー等を活用した PR とのことだが、どのような方に協力いただくのか。

- △ 台湾に影響のあるインフルエンサーをお招きし、高岡雅美プレミアムや観光コンテンツを体験していただき、その内容についてInstagramやYouTubeなどで情報発信をしていただく予定としている。
- △ 富山県の訪日客の約3割を台湾の方が占めている状況であり、主なターゲットとしている。今後、さらなる市場拡大を目指して台湾以外の訪日客、あるいは国内の富裕層に対しても、高岡のものづくりといった強みを生かして売り込みをしていきたい。
- 3点質問する。1点目は、富山市がニューヨーク・タイムズ紙で2025年に行くべき52か所として取り上げられたことで注目を浴びているが、本市への影響は。2点目は、インバウンドの方の宿泊者数はどうなっているのか。3点目は、注目を浴びているこの流れをどのように本市に向けていくのか。
- △ 1点目の質問について、訪日客が過去最高ということであり、今後も多くのインバウンドの方が訪れると思われる。本市への影響はこれからの話と考えているため、受け入れ態勢の整備を図っていきたい。2点目の質問について、外国人の宿泊者数は把握していないが、宿泊クーポンを活用した誘客促進事業が非常に好評で、多くの利用があることから、外国人の宿泊も増えてくるのではないかなと思う。3点目の質問について、高岡雅美プレミアムをはじめとしたインバウンド向けの体験型メニューなどを通して本市について興味を示していただくとともに、楽しんでいただけるような施策に取り組んでいきたい。
- 富山県が注目を浴びているこの好機を逃さないように施策を練っていただきたい。(要望)
- みんなで魅力発信！たかおかイチオシ動画シェア事業について、誰でも自由に利用できる動画とあるが、具体的にどのような方々の利用を想定し、自由にできる範囲についてはどのように考えているのか。また、本事業によってどのような客層を呼び込もうとしているのか。
- △ 観光事業者、メディアをはじめ、一般の方々にも利用していただきたい。動画の編集や加工も含めて、本市のために発信していただきたいと考えている。市民や本市に興味を持つ様々な方の観光PRマインドの醸成を図り、高岡観光PRのプレイヤーになっていただき、呼び水になることを期待している。
- 心配しているのは、誰でも自由に動画の加工、発信ができるということで、中には悪意を持った動画も発信されてしまう可能性があるのではないかなということである。この点について所見があれば伺いたい。
- △ 委員から指摘があった懸念事項を十分踏まえ、例えばガイドライン等の作成も検討しながら、本来の目的から外れた使用等がなされないようにしていきたい。
- 2点伺いたい。1点目は、高岡雅美プレミアムプロモーション事業について、事業名から内容が分かりづらいので、改めて事業内容について説明していただきたい。2点目は、「寿司といえば、富山」ということで富山県がPRしているが、本市でもその流れに乗ってはどうかと思うが、見解は。
- △ 高岡雅美プレミアムについては、近年のインバウンドをターゲットとした事業だが、インバウンドの方が求めるものの一つに本物の体験というものがあると伺って

いる。ものづくりや伝統工芸に関心のある方の興味を引く内容となっており、そういった背景もあってプレミアムという言葉を使用している。

- △ 事業内容については、体験型旅行商品の高岡雅美をインバウンドや国内の富裕層向けに高付加価値化した商品であり、ものづくりの体験に加えて、和菓子の製作体験の2つを組み合わせたものとなっている。通常の高岡雅美にはない和菓子作りの体験が楽しめるということで、高岡の伝統をより深く、体験できるというところがポイントである。2点目の質問について、寿司をはじめとする食を通じた観光は大切な視点と捉えている。令和6年度から高岡プレミアムランチ割を実施しており、寿司を含めた食に対する取組もしていきたい。
- 高岡プレミアムランチ割のような名称だと事業の内容が何となく分かるが、雅美だと事業の内容が分からない。そもそも正しく読めるのか疑問であり、今はスマートフォンで検索する時代であるため、スルーされてしまうおそれがある。もう少し分かりやすくなるように検討していただきたい。(要望)
- 高岡御車山会館魅力向上事業について、新しいレイアウトの検討内容を含めて現在の進捗状況は。
- △ 7年10月1日から指定管理者制度を導入することとしており、指定管理開始に間に合うよう工事を進めることとしている。

【令和7年度伏木港へのクルーズ船寄港に伴う取組について】

- 7年度の寄港回数は過去と比較して多いのか、少ないのか。
- △ 7年度の寄港回数は8回の予定であり、調べた中では過去最高の寄港回数となっている。対応する人員に余裕はないが、不都合が出ないように全力で対応しているところである。
- 今後、寄港回数を増やす取組をしていくと考えた場合、対応できるだけのキャパシティがあるのか。
- △ 万葉3号岸壁は、22万トンの大型船まで対応できるスペックとなっている。しかし、貨物の積み下ろしもしているため、岸壁の使用についてどのようにバランスをとっていくかという課題はある。この点については、岸壁の管理者である富山県が判断するところだと認識している。所管課としては、県と連携してポートセールスを行っており、より多くの船社に伏木港を利用していただきたいと考えている。人員体制については、寄港回数が現在より多少増えても何とか対応できるのではないかと想定しているが、感触としては1か月に3回以上となると手に余ると思う。
- 背後地観光の取組の中で、伏木のまち歩きマップはふ頭の観光案内所で配布、観光案内ブースは勝興寺前に設置、通訳ボランティアは伏木駅内の伏木観光推進センターに配置、と配置がバラバラになっているが、どのような動線を考えているのか。
- △ ふ頭の観光案内所については、伏木だけでなく県全体を含めての観光案内となっており、船から下りてきた全ての乗船客を対象としている。伏木観光推進センターについては、観光案内を生業としているが、通訳機能がない。以前、多くの外国人が来られた際に対応に窮したということで、市として通訳の配置をするものである。勝興寺前にも観光ボランティアとともに、通訳ボランティアを配置しており、外国

人の方々を送り出しやすいような仕組みを整えている。

- 今後入港する予定のダイヤモンド・プリンセス及び飛鳥Ⅱの乗船客について、日本人と外国人の内訳は。
- △ 乗船客の内訳については、寄港の直前でないと分からない。
- 外国人の方々が必要とする情報を適切に提供できるよう、引き続き取り組んでいただきたい。(要望)

2 その他

- 次回の本委員会の開催について

令和7年8月8日（金）午前10時に開催することが報告された。

〈 委員から、質疑等はなかった。 〉

〈 当局からの報告はなかった。 〉

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

港湾・交通・観光対策特別委員会 当局説明員名簿（11名）

副市長	河村 幹治		
未来政策部長	鶴谷 俊幸	都市創造部長 都市創造部技術政策監	梶本 敏規
未来政策部政策監	日名田 尚明	都市創造部次長	伴 孝宏
未来政策部次長 企画課長	寺井 知恵	都市創造部次長 震災復旧推進課長	山森 久史
産業振興部長	山本 真弘		
産業振興部次長	表野 勝之		
産業振興部参事（兼務）	伴 孝宏		
観光交流課長	野村 岳人		